

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス バビバレーン福山御幸		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 22日		～ 2026年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	2025年 11月 22日		～ 2026年 1月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性に合わせた個別性の高い支援が行われている	児童一人ひとりの発達特性や課題、保護者の意向を丁寧に聞き取り、アセスメントに基づいた個別支援計画を作成している。また、日々の支援の中でも職員間で情報共有を行い、関わり方を統一しながら柔軟に支援内容を調整することを意識している。	定期的なアセスメントの実施やモニタリングの質を高めるとともに、職員の専門性向上を目的とした研修やケース検討を継続的に行う。また、関係機関との連携を強化し、多角的な視点から児童理解を深める体制づくりを進めていく。
2	運動療育を中心に多様で工夫された活動プログラムが充実している	運動活動を軸としながら、製作・外出・クッキングなど様々な経験ができるよう、定期的なミーティングで活動内容の検証と見直しを行っている。子どもの興味関心や発達段階を踏まえ、楽しみながら成長につながる活動を提供できるよう工夫している。	子どもの興味関心や発達段階に応じた新しいプログラムを積極的に取り入れるとともに、曜日による体験機会の偏りが出ないよう調整を行う。また、活動のねらいや効果を保護者へ分かりやすく発信し、支援の見える化を図っていく。
3	送迎時やLINE等を活用した保護者との丁寧で迅速な情報共有体制が整っている	送迎時の対面でのやり取りに加え、LINEや電話を活用し、その日の様子や気になる点をこまめに伝えている。また、保護者が相談しやすい雰囲気づくりを意識し、気軽に悩みや困り事を共有できる関係性の構築に努めている。	定期的な面談機会の確保や相談会の実施により、保護者が気軽に相談できる場を増やしていく。また、家庭での関わり方に関する具体的な助言や情報提供を行い、家庭と事業所が一体となった支援体制の充実を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会については実施しているものの、保護者への周知が十分ではなく、交流の有無が分かりにくい	地域の公園活動などで自然な形で交流は行っているものの、交流を目的とした活動として明確に位置づけておらず、保護者へ意図や実施状況を十分に発信できていないことが要因と考えられる。	地域交流を目的とした活動として位置づけを明確にし、実施内容やねらいをお便りやSNS、活動報告等で具体的に発信していく。また、交流機会を計画的に設定し、保護者が把握できる形で周知していく必要がある。
2	保護者に対する専門的な助言や面談の機会については、さらなる充実を求める声があり、支援機会の不足が課題	日々の送迎時の情報共有が中心となっており、計画的に相談や助言の時間を設定する仕組みが十分に整っていないため、専門的な関わり方の助言機会が不足していると考えられる。	定期的な個別面談の機会を計画的に設けるとともに、相談しやすい体制づくりを進める。さらに、子どもの特性に応じた関わり方や支援方法について、具体的な助言や情報提供を積極的に行う工夫が必要である。
3	非常時に備えた避難訓練等は定期的実施しているが、その内容や実施状況についての保護者への情報発信が十分とは言えず、認知が低い	避難訓練は定期的実施しているが、実施後の報告や内容説明が簡易的であり、保護者へ具体的な取り組み状況が伝わりにくいことが要因と考えられる。	避難訓練の実施後には内容や子どもの様子をお便りやSNS等で発信し、保護者へ具体的に伝える体制を整える。また、非常時の対応方法についても分かりやすく説明し、家庭と共通理解を図る取組が必要である。